

農山村と都市の協働・共生の 「ネットワークと拠点」を作る —都会のど真ん中に協働プラットフォームを—

2006年4月16日

(特) ボランティアネイバーズ

農山村と都市の新交流時代を拓く！

CAMP PROJECT CITY&AGRICULTURALVILLAGE MACHING&PROMOTION

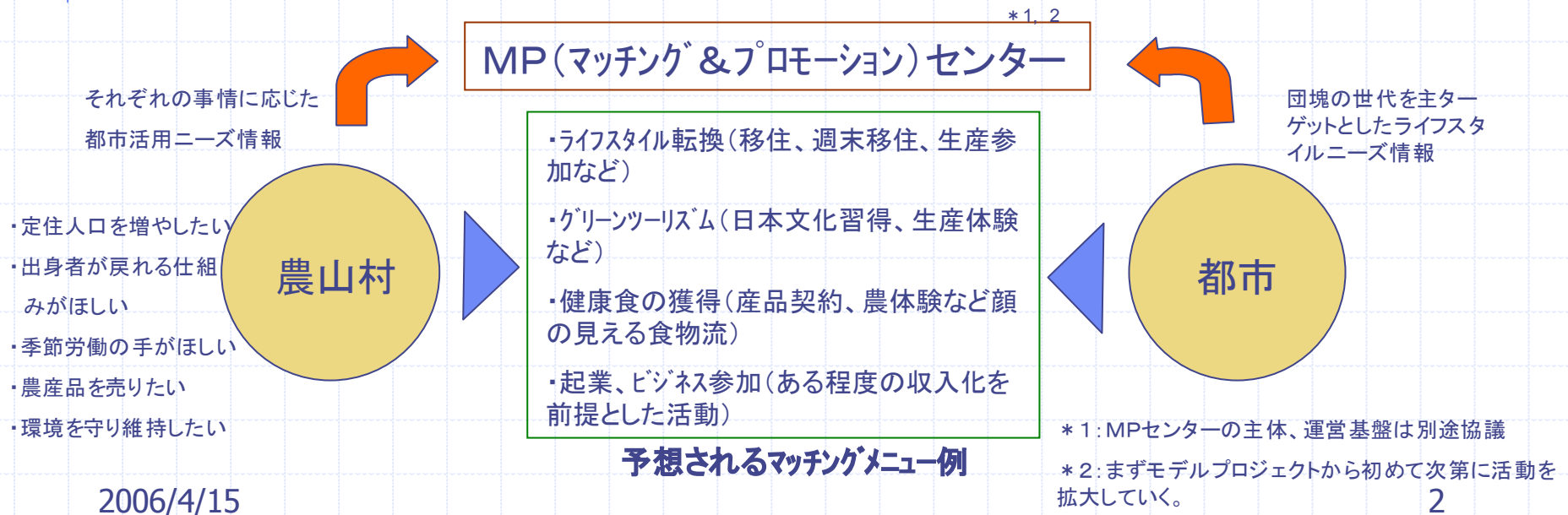
◆主旨

農山村と都市、双方の資源を生かし、双方の顕在/潜在ニーズのマッチングを図っていく。団塊の世代を主ターゲットとして、新しいライフスタイルを提示し、ひと・もの・情報が豊かに循環する、農山村と都市の新交流時代を開拓する。その結果、双方が元気になれる具体的交流メニューを立案/実行する。 * 子どもたちへの伝達・教育の意義も。

◆従来の試みとの違いは何か

農山村と都市の交流については従来から様々な試みが成されてきた。しかし十分な成果が出ているとは言えない。そのような反省を踏まえ、従来との主な相違点を挙げると以下ようになる。

- (1) 団塊の世代の人生の第2ステージが間近かに迫り、交流予備軍人口は確実に増えている時代を迎えている。
- (2) 従来は、交流のメニューの多様性が不十分であった。今回、選択の多様性の確保を視野に入れている。
- (3) 従来、広報/マッチング機能が戦略的に機能していない面があったが、今回は情報集約を図り、双方にとって最適なマッチングメニューを提供することを前提としている。



協働・共生の「ネットワークと拠点」

◀◀ 協働・共生 ▶▶

- ◆ 特性・力量活かした分担・協働。相乗効果・一人では出来ないことが出来る。
- ◆ 「ひと・もの・かね・情報」地域資源の発見・開発。
- ◆ セクター間協働。官民協働。行政・企業・NPOの協働。
- ◆ 地域間協働。

◀◀ ネットワーク ▶▶

- ◆ 「東海地区」をベースに展開
- ◆ 山村と農村では「状況が違う」
- ◆ 網の目の仕組み。有機的であること。役に立つこと。

◀◀ 拠点 ▶▶

- ◆ 名古屋市栄に拠点を造る。候補施設は、再建設予定の公共施設へアプローチする。
- ◆ 愛知・岐阜・三重農山村からの「情報」の共同プラットフォーム。
- ◆ ひと・もの・かねが動く(動かす)コーディネート・マネージ拠点。そこに人材がいる。
- ◆ ネイバーズは、ビデオ制作・インターネット放送が出来る。(している)

◀◀ NPOの特性・特徴・メリット ▶▶ (行政仕事と比較して)

- ◆ ビジネスが出来る。お金を動かすことができる。
- ◆ 取り組み事例の優劣・評価が出来る。取捨選択・誘導が出来る。プロデュース・コーディネートができる。

実現までのステップ & スケジュール案

名古屋市教育館は建替計画。「大人の知の拠点」をコンセプトとし、市民放送局を設置することが決まっている。農山村情報は一つの切り口になると考えている。

第1ステップ

実証実験(1)リアルタイプ誕生バージョン

名古屋市教育館にて小規模実証実験を行う
例えばVNSサテライトとして限定日に活動

リンク

実証実験(2)WEBタイプ

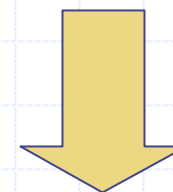
インターネット上にHP、
ブログなどを活用して仮想
オフィスを設立

第2ステップ

実証実験(2)リアルタイプ成長バージョン

名古屋市教育館にて共同型実証実験を行う
参加者共同出資で限定日あるいは毎日活動

リンク



成長、発展



農山村と都市の協働・共生の「ネットワークと拠点」を作るワークショップ(案)

- ◆ 日時 2006年4月16日(日) 13:30~17:00
- ◆ 会場 伏見ライフプラザ12階・第1研修室(名古屋市中区栄1-23-13 電052-222-5781)
- ◆ 主催 (特)ボランタリーネイバーズ ■参加費 1000円
- ◆ 話題提供者・討論参加者 次頁
- ◆ 概要 全体30名程度。趣旨・論点提起・少人数でグループ討論・全体共有
- ◆ 論点 (1)どのような「施設・内容」であれば、使うか？主体的に加わるか？
 - 農山村側から見た場合
 - ・どのようなコーディネートが必要か
 - 都市側から見た場合
 - ・どのような情報、受入プログラムが欲しいか？
- (2)どうすれば、そのことが可能になるか？
 - ・収入はどこで発生させることができるか？
 - ・ユーザー(お客)はどう開発するか？
 - ・中身のある情報をどのように集めるか？
- (3)「民間、NPO、新規・新参」で創るポイントは何か？

参加予定者名簿

1	三重	杉本末喜	熊野市・杉本農園
2	岐阜	西尾勝治	白川町・大豆畑トラスト
3		宮澤杉朗	白川町・大豆畑トラスト
4		金子徳彦	郡上市・フィールドミュージアム古今伝授の里
5		佐藤 滋	白川町林務商工グループ長(今井良博町長代理)
6		桂川 實	中津川市加子母総合事務所
7		中川 護	馬瀬村・農協
8		野村富美江	下呂市
9		深和昌司	美濃市
10	愛知	森田昭夫	東栄町・町長
11		森田 実	豊橋市・穂の国森づくりの会
12		佐藤正之	新城市・奥三河ビジョンフォーラム
13		加藤博俊	設楽町ふるさとガイド・環境省自然公園指導員
14		黍嶋久好	豊根村・愛知大学三遠南信地域連携センター
15		辻 昌生	設楽町・IORI工房
16	名古屋	羽根田英樹	名古屋市
17		辻本哲朗	愛知県
18		大沼淳一	木曾川トラスト
19		小川 明	ビオトープを考える会
20		岡田英幸	東海自治体学会運営委員
21		丹羽健司	東海農政局、矢作川水系森林ボランティア協議会
22		金沢輝芳	愛知県
23		近藤 朗	愛知県、愛知川の会企画委員
24		佐藤仁志	佐藤仁志
25		黒田貴信	愛知県

26		古橋 昭	愛知県地域振興部地域政策課
27		西川 祐司	愛知県地域振興部地域政策課
28		石川 淳二	愛知県地域振興部地域政策課
29		七原 智康	愛知県地域振興部地域政策課
30		清水雅子	愛知県環境調査センター
31		藤 正三	地域問題研究所主任研究員
32		小川昭彦	(株)名邦テクノ
33		竹内寿美子	愛知県環境調査センター
34		古田剛士	親和木材
35		藤森幹人	日建設計
36			
37		寺本 潔	まちワーク研究会、愛知教育大学教授
38		安藤 直彦	京大大学院・エントロピー学会
39		昇 秀樹	名城大学教授
40		太田 宏	青山学院大学教授
41		滝川正子	なごやの森づくりパートナーシップ連絡会代表
42		木野秀明	市民とメディア研究会・あくせす事務局長
43		伊藤都万	東海自治体学会運営委員
44		武長脩行	NPO法人東濃ネットワーク理事長
45		星野広美	NPO法人 人にやさしいまちづくりネットワーク東海
46		大西 光夫	
47		間瀬寿夫	
48			
49			
50			

ワークショップの運営

テーマ＝「どうすれば実現できるか」

- ◆ 13:00 関係者集合・打合せ(30分) * 食事済ませて集合。
 - ◆ 10名以内で1テーブル、グループ討論、全体で30名程度予定。
 - ◆ 事例発表者 1名
 - ◆ ファシリテーター 1名
 - ◆ 記録者(補助者) 1名
 - ◆ 討論参加 4～5名
- ◆ 13:30 開会・趣旨説明(15分)
- ◆ 13:45 発言(各15分×3～4事例)

- ◆ 14:45 休憩 自由交流時間(15分)
- ◆ 15:00 ワークショップ(90分)
- ◆ 16:30 発表会・全体討論(30分)
- ◆ 17:00 閉会 自由交流時間(30分)と移動時間(近くです)
- ◆ 18:00 2次会

ワークショップの事務連絡

- ◆ 参加者集合時間 13:00 (昼食済ませて集合。伏見ライフプラザ12階フロア)
 - * 30分ほど打ち合わせします。
 - * ビルに美味しくない食堂あり、近くに美味しい食事処あり。
- ◆ 希望者で2次会 18:00～20:00程度 (会費4・5000円程度)
- ◆ 宿泊希望の方 名古屋クラウンホテル
<http://www.nagoyacrown.co.jp/>
- ◆ 取組みがわかる「資料・パンフレット」を事前にご送付ください。
 - 部数は、100部 (事後活用のため)
461-0005名古屋市東区東桜2-18-3 702号 電話052(979)6446
ボランティアネイバーズ 宛て